

第2期(2004年度)SSCS (Small Schools for Civil Society)

インターンシップ奨励プログラム

活動カリキュラム(2004年6月~2005年6月)

団体概要

記入日 2004年3月

団体名 (小さな学校)	特定非営利活動法人 行徳野鳥観察舎友の会
代表者・ 連絡担当者名	役職 理事長 氏名 東 良一 連絡担当者名 蓮尾純子
団体住所等	〒272-0127 市川市塩浜 4-2-21-1401 大関方 通常の連絡先 272-0137 千葉県市川市福栄 4-22-11 行徳野鳥観察舎気付 電話: 047-397-9046 (野鳥観察舎) FAX: 左に同じ または 047-396-1582 蓮尾自宅 E-mail: ZVM11117@nifty.ne.jp URL: homepage2.nifty.com/suzugamo/top.html 連絡のつく曜日・時間帯: 基本的に常時可
設立時期	1979年11月 設立

団体の活動目的と活動内容

千葉県市川市にある行徳野鳥観察舎と行徳鳥獣保護区が活動の中心です。「新浜(しんはま)」と呼ばれた日本有数の渡り鳥渡来地の一角に造成された保護区域の自然を守り育てること・観察舎利用者相互の親睦を深め、普及啓蒙をはかることを目的としています。

平成14年度以降、野鳥観察舎と鳥獣保護区の管理運営の大半(野鳥病院含む)を本会が業務として受託するようになりました。どうやったら生物にとって良好な湿地環境を育てることができるか、模索しながら日常の管理作業にあたっています。

活動カリキュラム

活 動 名	行徳野鳥観察舎における傷病鳥救護・湿地復元の実践
主な活動場所 最寄駅名と駅からの距離	千葉県行徳野鳥観察舎 最寄駅: 営団地下鉄東西線 行徳駅から徒歩 25分
スケジュール 2004年6月 6~9月 9月 10~11月 12~2月 3月以降 6月 (次頁につづく)	<p>< 活 動 な ど > (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSCS 入校式・事前研修(第1期インターン修了報告会と併催)に参加して、他のインターンとの交流・理解を深める。 <p>インターン開始</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス 行徳鳥獣保護区・行徳野鳥観察舎とその活動の紹介 ・傷病鳥の世話、草刈り・水管理など湿地の復元、維持管理作業の実践 ・SSCS 中間研修に参加して他のインターン・団体との交流・理解を深める。 ・水管理・営巣場所改良等の実践 ・稲刈り・収穫祭・クリーンアップ三番瀬・市民まつり等の友の会行事への参加・補助 ・施設や機器の維持・補修等、繁忙期に手がまわらない維持管理作業 ・インターン本人の興味や希望に応じ、通常業務の中で掘り下げたい内容に重点を置いて実践(例 水質浄化の実験や実践、観察会指導、動植物調査、展示物作成、傷病鳥救護、観察施設の改良ほか) ・SSCS 修了報告会で活動の成果を発表(活動終了後、報告書を提出) <p>カリキュラムといっても、基本的には観察舎で実施している業務の流れそのものです。それぞれの時期や季節に応じた節目はありますが、どちらかと言えば単純作業の繰り返しかもしれません。それでも、30年続けていても、毎日が新しい発見と失敗(時には成功)の連続です。それが自然や生きものに接している活動の原動力ではないでしょうか。</p> <p>日常業務を継続すること、またスタッフや友の会の他のメンバー、観察舎を利用する人々との交流の中で、浮かび上がってくる目標、興味、疑問といったものがあると思います。それを大切にしていきたいと思っています。</p>

(スケジュールつづき)	活動開始にあたって、感染予防のため破傷風の予防接種を受けていただきます。 (費用はプログラム側で負担しますので自己負担はありません。また、学校等で接種されている方は必要ありません)
総括的な受け入れ指導者名(スーパーバイザー): 蓮尾純子 日常的な受け入れ担当者名(メンター) : 蓮尾純子ほか	

インターンに期待すること(求められる専門性、技能などについて)

専門性、技能等は特に必要ありません。
 心身ともに健康であること、できれば生きものや自然に興味があること、汚れ仕事をいとわず、仕事の中に面白さや楽しみを見出すことができる根性を求めます。

活動日について

業務内容が多岐にわたり、365日続くこともあって、その日の顔ぶれと天候によって、分担する仕事の内容が決まります。インターンの方のご都合で活動日を決めていただいてもかまいません。メールや電話、また研修日に次回の予定を決める、というやり方で、無理なくやっています。

団体の活動を理解するために役に立つと思われる資料や情報

図書	「水鳥たちの干潟」	蓮尾純子	フレーベル館
	「野鳥観察日記」	蓮尾純子	筑摩書房(絶版)
	「水鳥が戻ってきた」	蓮尾純子	NTT出版
	「新浜だより」	蓮尾純子	明光企画
	「NPO実践講座2」	山岡義典編著	ぎょうせい
	「よみがえれ 新浜」	行徳野鳥観察舎友の会	
	「せせらぎ1号発射オーライ」	行徳野鳥観察舎友の会	

その他

「湿地の復元」というと、なんだかカッコよさそうな命題に聞こえます。「自然再生」とか、「自然との共存」ということばが最近よく使われるようになっており、これももっともらしく聞こえます。

そういうことばに共感を感じたり、あるいは白々しいものを感じ取ることができる能力をお持ちかもしれないあなた。1年という機会を生かして、私たちといっしょに、生きものたちとつきあったり、戦ったりしてみませんか。もしかすると、行徳のささやかな自然回復実験から、いやおうなしに、世界、地球へと視野がひろがるかもしれません。

ただし、毎日の業務そのものは、半分強が「傷病鳥の世話」(傷ついた鳥を世話する野鳥病院の維持管理)になると思います。臭かったり、汚かったり、死んでしまったもの、傷ついたもの、助けられないものを目にした。「生きものと接する」とはこのようなものだ、という実感はたっぴり味わっていただけますが、「動物が好き!」というだけでは、つらい経験が少なからずあります。

そうしたこと一切を含めて、私たちがやっていることをあなたにお伝えしたいと思います。どうぞ、いらしてみてください。

行徳野鳥観察舎でやっている活動の内容は、単純作業の繰り返しが多いのですが、かなり多岐にわたり、奥も深いかもしれません。説明がなかなかむずかしいです。応募される際には、かならず見学(できるだけ一日体験をお願いしたいです)をしてください。その際には、あらかじめ電話での予約をお願いいたします。予約なしですと、時間を割けないことが多いです。

それでは、お待ちしております。